

THE 13TH WORLD KENDO CHAMPIONSHIPS, TAIPEI 2006

International Kendo Federation (IKF)

2F, Yasukuni Kudan Minami Bldg.
2-3-14, Kudan Minami, Chiyoda-ku,
Tokyo, Japan 102-0074
Tel: +81-3-3234-6271
Fax: +81-3-3234-6007



Republic Of China Kendo Association (R.O.C.K.A.)

No.108, Wenquan Rd., Beitou District,
Taipei City 112, Taiwan (R.O.C.)
Tel: 886-2-2891-8640
Fax: 886-2-2891-8640
E-mail: service@rockendo.org.tw

第13回世界剣道選手権大会要項

2005年4月7日

1. 主 催： 国際剣道連盟 (IKF)
主 管： 中華民国剣道協会 (ROCKA)
後 援： (財)全日本剣道連盟 (AJKF)
2. 開催地および大会会場： 台湾 (中華民国)、台北市、台湾大学体育館
3. 行事日程： 2006年12月6日(水) ~ 12月11日(月)

(1) 大会期日：2006年12月8日(金) ~ 12月10日(日)

(2) 行 事：

月日	行 事 (日中)	(夜)
12月6日(水)	審判講習会 (審判会議) EKF総会	
12月7日(木)	監督会議、団体戦初戦オーダー表提出 IKF理事会/総会	IKF会長招宴
12月8日(金)	開会式 女子個人選手権、女子団体選手権 表彰式、親善稽古	
12月9日(土)	開始式 男子個人選手権 表彰式、親善稽古	
12月10日(日)	開始式 男子団体選手権 表彰式、閉会式	サヨナラ パーティー
12月11日(月)	全剣連剣道講習会/剣道段位審査会 (初段~七段)	

*組み合わせ抽選会は、最終エントリー確定後に公開で行なう。(6-(4)参照)

*参加国は12月7日までに、主管の中華民国剣道協会大会事務局へ選手団の到着を報告し、12月7日の監督会議に必ず1名は出席すること。

4. 試合規則

試合は全て国際剣道連盟試合・審判規則（2000年3月23日改訂版）により行なう。（その後の改訂がある場合はそれも含む。）但し試合時間は、後述7-(2)-aおよび8-(7)-a-1)で定義した時間で行なう。

5. 参加資格

(1) 参加国（参加団体）

本大会に参加できるのは、IKF加盟国（加盟団体）のみとする。但し本大会前年のIKF理事会において、IKF加盟が承認された国（未加盟団体）は、本大会に参加することができる。

(2) 参加者

本大会試合に参加する選手は、次の資格を有しなければならない。

- a. 上記参加国（参加団体）の正式登録会員であること。
- b. 最終エントリーの時点で、代表する国の国籍を有すること。（確認のために、パスポートの提示を求められる場合がある。）その国の国籍を有しない者については、事前にその国の会長が理由書をIKFへ提出して審査を受け、最終エントリー前にIKF会長の承認が得られた場合のみ認められる。

6. エントリー、出場選手登録および組み合せ抽選

(1) 予備エントリー

予備エントリーは、IKFおよび主管国が各国の参加予定を把握し、大会規模や費用を見積もるために行なうものである。各国は以下について所定の予備エントリー用紙に記入し、指定の締切日までにIKF事務局へ提出しなければならない。

- a. 第13回世界剣道選手権大会（13WKC）への参加意志
- b. 選手団役員（団長、監督、コーチ、合計5名まで）および選手団選手（男女各10名まで）の予定数
- c. 各競技（男女 個人・団体）への参加意志
- d. 各競技（男女 個人・団体）へ登録する予定の選手数（個人選手権は男女とも最大4名まで、団体選手権は男女とも最大7名まで。）

予備エントリー締切日： 2006年1月31日

(2) 最終エントリー（選手団氏名登録と参加競技登録）

各国は、選手団役員（団長、監督、コーチ、合計5名まで）および選手（男女各10名まで）の氏名を明らかにして、最終的に自国選手団としてエントリーする。エントリー者は前述5-(2)の参加資格を満たさなければならない。各国は以下の項目について所定の最終エントリー用紙に記入し、指定締切日までにIKF事務局へ全員の写真とともに提出しなければならない。

- a. 全員の氏名、年齢、段位、国籍
- b. 各競技（男女 個人・団体）への参加意志
- c. 男女個人選手権へ登録する予定選手数（男女とも最大4名まで。）

最終エントリーされた選手のみが試合に参加することができる。一旦最終エントリーがIKF事務局に受理された後は、選手団役員・選手とも変更は認められない。男女とも、団体選手権に出場するためには、最終エントリーする選手が5名以上いなければならない。

最終エントリー締切日： 2006年8月29日

(3) 出場選手登録

参加各国が最終エントリーした選手のうち、各競技にそれぞれ出場する選手の氏名を登録するものである。各国は、個人選手権出場選手登録および団体選手権出場選手登録について、それぞれ所定の用紙に記入の上、下記のそれぞれの締切日までにIKF事務局へ出場選手氏名を提出しなければならない。

- a. 選手は、個人選手権・団体選手権の両方に出場することができる。
- b. 男子は女子部門の試合に、女子は男子部門の試合に出場することはできない。
- c. 個人選手権出場選手登録は、男女とも各4名以下。
- d. 団体選手権出場選手登録は、男子女子ともそれぞれ5名以上7名以下とする。
- e. 団体選手権については、前項の人数が揃わない場合、出場選手登録をすることはできない。
- f. 審判は選手として試合に出場することはできない。

個人選手権出場選手登録 締切日： 2006年8月29日（最終エントリーと同時に）

団体選手権出場選手登録 締切日： 2006年11月10日

(4) 組み合わせ抽選

男女個人および団体選手権予選の組み合わせ抽選は、IKF役員と主管国剣連会長立合いのもとで、最終エントリー確定後すみやかに抽選会を行ない、各国へその結果を通知する。男女団体選手権予選は、前回大会の成績に基づき、上位チームのシード制とする。（後述8-(7)-c および添付図参照。）

なお、組み合わせ確定後に欠場が決まった場合や試合当日欠場があっても、再抽選や組み合わせ変更は行わない。

7. 個人選手権試合の方法

(1) 個人選手権に出場する選手は、個人選手権出場選手として出場選手登録された選手でなければならない。（男女とも最大4名まで）

(2) 試合の方法

- a. 試合は、予選および決勝トーナメントとも、男子は時間5分による3本勝負、女子は3分による3本勝負とし、時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行なう。延長戦は1本勝負とし、勝敗の決するまで時間を区切らず行なう。
- b. 予選では、3名で構成されるいくつかのグループを設け、グループ内で総当たり戦を行なう。各グループの1位が決勝トーナメントに進出する。（図略）
- c. 予選各グループへの選手の振り分けは抽選による。但し同じ団体の選手は異なるグループに振り分ける。また、グループ構成の際、端数のある場合は、2名をもって1つのグループとする場合がある。
- d. 予選グループ内の順位決定方法
 - 1) 勝ち数の最も多い者が、決勝トーナメントに進出する。
 - 2) 勝ち数が同じ場合は、取得本数の多い者を上位とする。
 - 3) 勝ち数も取得本数も同じ場合は、該当者間の試合によって決勝進出者を決定する。試合方法は1本勝負とし、勝敗の決するまで時間を区切らずに行なう。

(3) 表彰

1位、2位、3位（2名）および敢闘選手8名を表彰する。敢闘選手はIKF会長の指名による若干名の選考委員により決定される。

8. 団体選手権試合の方法

- (1) 団体選手権は、男女とも、各団体から1チームが参加できる。
- (2) 男女とも、1チーム5名以上7名以下の出場選手登録済みの選手で構成されなければならない。
- (3) 試合は男女とも5人制により勝敗を決する。(なお、試合当日において、登録選手の棄権により出場選手が3名に満たなくなった場合、そのチームは団体選手権試合に出場することはできない。当日棄権者が出た場合、1名であれば次鋒の位置、2名であれば次鋒および副将の位置を棄権とする。)
- (4) 試合毎の出場選手は、団体選手権出場選手として出場選手登録された選手の中から選ばれ、その編成は試合の都度変更できる。
- (5) 試合の出場選手オーダー表は、予選においては直前の試合の開始前に、その試合場の試合場主任に届けなければならない。(但し、そのチームの最初の試合のオーダー表は、監督会議後に大会事務局へ提出されなければならない。) 決勝トーナメントでは、対戦チームが決まり次第、両チームが同時にオーダー表を試合場主任に提出することとする。なお、前試合からオーダーに変更がない場合も、必ず試合毎にオーダー表を提出しなければならない。
- (6) オーダー表と異なる順番で試合に臨んだ場合、個々の試合において主審の「始め」の宣告前に判明した場合は、罰則なくオーダー表の順番に修正することができる。オーダー表と異なった個々の試合で主審の「始め」の宣告後に判明した場合は、その時点で審判はその試合を中止する。オーダー表と異なる順番で試合した1選手、およびそれにより順番が異なってしまうもう一人の選手については、その場で負けとし、両方の相手選手に2本を与える。また、そのチームの選手全ての対戦が終了し勝敗が決定した後、その試合のチーム同士の対戦終了の礼までに判明した場合は、オーダー表と異なる順番で試合をした選手全ては負けとし、相手選手それぞれに2本を与える。チーム対戦終了の礼の後に判明した場合、その対戦は成立したものとす。

(7) 試合の方法

a. 個々の試合

- 1) 団体選手権における個々の試合は、予選および決勝トーナメントとも、男子は時間5分による3本勝負、女子は3分による3本勝負とし、時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。
- 2) 選手が健康上およびその他の事由により試合を棄権する場合、その試合は棄権側を負けとし、相手選手に2本を与える。但し、双方の選手とも棄権した試合は、どちらにも勝敗・本数を与えない。
- 3) 代表者戦は1本勝負とし、勝敗の決するまで時間を区切らずに行なう。

b. 予選

1) 男子団体予選 (添付図Ⅰおよび例参照)

- ① 基本は3チームの予選グループを設ける。参加チーム数によっては4チームのグループを最大2つまで設ける。予選グループ内全てにおいて総当たり戦を行なう。
- ② 各予選グループ1位のチームは、決勝トーナメントに進出する。添付図Ⅰに示す優先順位で、予選グループ2位のチームも決勝トーナメントに進出できる。(決勝トーナメントに進出できる2位のチーム数は、参加チーム数により異なる。)
- ③ 組み合わせ確定後、あるいは試合当日に欠場チームが出ても、組合せは変更しない。

2) 女子団体予選 (添付図Ⅱおよび例参照)

- ① 参加チーム数により2~4チームの予選グループを設け、グループ内で総当たり戦を行なう。

- ② 各予選グループの1位、2位のチームは、添付図Ⅱに示す位置で決勝トーナメントに進出する。
- ③ 組み合わせ確定後、あるいは試合当日に欠場チームが出ても、組み合わせは変更しない。

c. 予選グループへの振り分け

各予選グループへのチームの振り分けとグループ内での配置は、抽選による。但し、前回大会の1位から3位までの4チームをシードとし、それぞれ別の予選グループに振り分ける。シードチームの振り分けは、図の通りとする。

(3位位置は抽選。男子図Ⅰ、女子図Ⅱ、およびそれぞれの例参照。)

d. 予選における勝敗および順位の決定

- 1) 予選におけるチーム同士の対戦の勝敗は、以下のようにして決定される。
 - ① 勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ② 勝者数が同じ場合は、取得本数の多い方を勝ちとする。
 - ③ 勝者数も取得本数も同じ場合は引き分けとし、代表者戦は行なわない。
- 2) 各予選グループ内の対戦による成績で上位の1チーム（または2チーム）が、決勝トーナメントへ進出する。
- 3) 予選グループ内の順位決定方法は次の通りとする。
 - ① チームとしての勝ち数が多い方を上位とする。
 - ② チームとしての勝ち数が同じ場合、負け数の少ない方を上位とする。
 - ③ 上記①・②が同じ場合、勝者数の多い方を上位とする。
 - ④ 上記①～③が同じ場合、取得本数の多い方を上位とする。
 - ⑤ 上記①～④が同じ場合、グループ内1位・2位の決定については、代表者戦によるものとする。
 - ⑥ グループ内で、3チーム以上が上記①～④についてまったく同じ場合は、当該チーム代表による総当りの代表者戦で順位を決定する。

e. 決勝トーナメント

- 1) 決勝トーナメントは、16ブロックによって行なう。(男子図Ⅰ、女子図Ⅱ、および例参照。)
- 2) 決勝トーナメントにおけるチームの勝敗は、以下のようにして決定される。
 - ① 勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ② 勝者数が同じ場合は、取得本数の多い方を勝ちとする。
 - ③ 勝者数も取得本数も同じ場合は、代表者戦により勝敗を決定する。

(8) 表彰

男女それぞれにおいて、1位、2位、3位（2チーム）および敢闘選手8名を表彰する。敢闘選手はIKF会長の指名による若干名の選考委員により決定される。

9. 大会役員および審判員の選任

- (1) 大会役員の任命は、前回大会に準じて、IKF本部が行なう。
- (2) 審判団は、審判長1名、審判主任4名、審判員24名以上、計29名以上で構成する。
- (3) 審判員の選任

a. 選考

IKF加盟団体会長は、次の①から⑤に定められた条件を満たす者（各国6名以下）を、所定用紙にてIKF会長に推薦する。各国からの推薦者にIKF会長推薦の者を若干名加えた候補者の中から、IKF会長が委嘱した選考委員会がWKC審判員を選考する。

- ① IKF加盟団体の会員であり、原則として当該国の国籍を有する者。
- ② 年齢35歳以上、70歳以下（2006年1月1日時点）の者。
- ③ 剣道5段以上を有し、健康体であり、常時稽古に参加している者。
- ④ IKF剣道試合・審判規則を熟知し、国際大会や国内選手権大会および同程度の大会の審判経験が豊富で、審判能力の高い者。
- ⑤ 前回大会以降、IKFゾーン別審判講習会に最低1回は参加しており、かつ大会の約半年前に日本で行われる審判講習会およびWKC期間中に行われる審判講習会に必ず出席できる者。

b. 審判員の委嘱

IKF会長から選考された者の通知を得た加盟団体会長は、委嘱を受けた本人の諾否の確認結果を直ちにIKF事務局に報告するものとする。

c. 審判長、審判主任および日本人審判員はIKF会長が指名する。

10. 費用の負担区分

- (1) 全ての参加者は、それぞれの国と開催地の往復旅費、滞在中の宿泊費および食費を自己負担とする。特に大会期間中の宿泊費、食費の負担額、予約および支払方法等詳細については、主管の中華民国剣道協会から事前に参加各国へ指示されるので、その指示に従うこと。
- (2) 審判員については、審判講習会前日（12月5日）の夕食から審判講習会翌日（12月7日）朝食までの宿泊および食費をIKFが負担するものとし、相当額を各審判員が所属するIKF加盟団体へ支給する。その他の大会期間中の宿泊および食費は自己負担またはその審判員が所属するIKF加盟団体負担とする。
- (3) 大会および関連行事にかかわる費用については、IKFおよび主管の中華民国剣道協会が協議の上、それぞれの負担分を決定する。

11. その他

- (1) 各国選手団、審判、IKF役員は、開催地に到着後、必ず大会事務局へその到着を連絡し、主管の中華民国剣道協会から必要書類や資料等を受け取らなければならない。
- (2) 試合の直前に行なわれる選手の呼び出しがあつてから5分以内に現れない選手は失格とし、その試合に出場できず、不戦負けとなる。
- (3) 担当審判員の合議により、薬物（アルコール類を含む）の影響下にあることが明瞭と認められた選手は失格とされ、その試合に出場できず、不戦負けとなる。なお、大会期間中または大会期間前後にドーピング検査が実施される場合は、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の規程に準じた内容で実施される。実施詳細については、主催者であるIKFまたは主管である中華民国剣道協会より参加各国へ事前に連絡がなされる。
- (4) 各国選手団、審判、IKF役員は、自国において旅行期間中の疾病傷害保険に加入することとする。

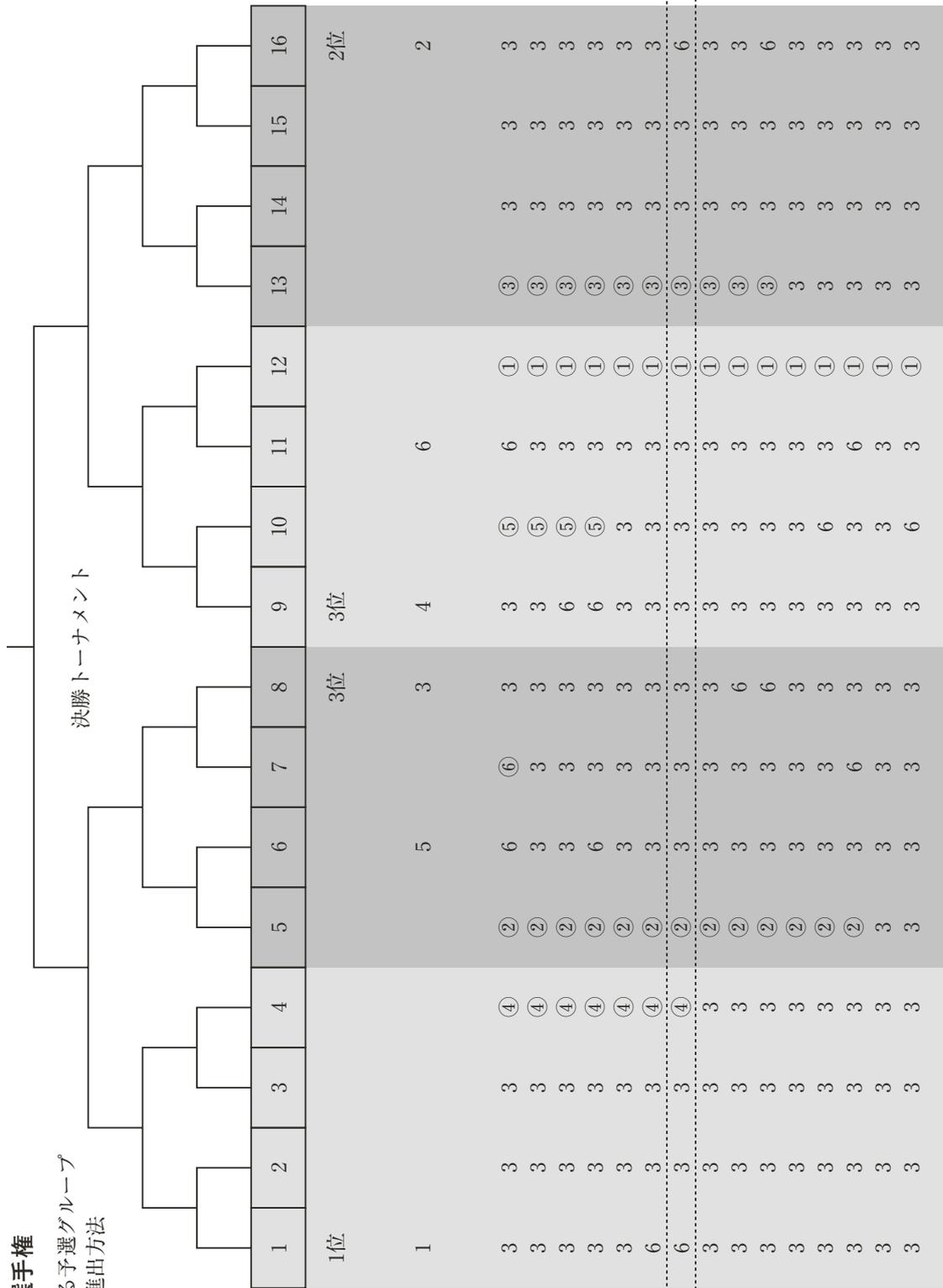
(以上)

添付：図Ⅰ：男子団体選手権参加チーム数に対する予選グループと決勝トーナメント進出方法
 図Ⅱ：女子団体選手権参加チーム数に対する予選グループと決勝トーナメント進出方法
 例：男子団体選手権38チームの場合の例、女子団体選手権20チームの場合の例

本要項の和文と英文に齟齬があつた場合は、和文を優先とする。

Ⅰ 13WKC男子団体選権

参加チーム数に対する予選グループと決勝トーナメント進出方法



* 整数 (3, 6) があるブロックは予選の試合がある
 * 3は予選3チームグループの試合数
 * 6は予選4チームグループの試合数
 * 予選の試合がある各ブロックの1位は同じブロックで決勝トーナメントに進む
 * ○数字は2位選出優先ブロックから選出された2位の決勝トーナメントの位置
 * ブロック番号1~4は第一試合場、5~8は第二試合場、9~12は第三試合場、13~16は第四試合場。

13WKC男子団体選手権

例/Examples

38チームの場合の例

決勝トーナメント



13WKC女子団体選手権

20チームの場合の例

決勝トーナメント



例/Examples